

第8章 当面の及び将来の調査研究課題

8.01 同時並行活動

08.01.01 同時並行活動とは何か？

445. 活動には一定時間に 1 つだけの活動を行う場合があります、これは「単一活動(single activity)」と呼ばれます。あるいは時々あることですが、一定時間に 1 つ以上の他の活動と並行して活動を行う場合があります、こうした活動は合わせて「同時並行活動(simultaneous activity)」と呼ばれます。同時並行活動があることにより、自己使用のためのサービス生産の貨幣評価が難しくなります。なぜなら、特定の活動によって、また、用いる評価アプローチによって、各活動にどの程度の時間を充てたか判断する必要があるためです (UN,2005)。

446. ながら仕事（同時に複数の仕事をこなすこと）の定義や記録の仕方によっては、活動の普及状況や重要性に関する結論に影響を与えます。ながら仕事とは何かということについて認識が異なれば、活動を記録するとき、とりわけ、記録の対象や記録の方法についての指針がない場合には、ばらばらな対応がされることもあります。これにより、調査の参加者の一人が作成した生活時間日記は、他の人が作成した日記とどの程度比較ができるのかという疑問を投げかけられる可能性があります。

447. 同時並行活動は、連続して行われる活動、すなわち、同じ時間帯に行われることがあっても、明らかに、同時に行われることがない活動とは異なります。理想的には、続いて行われる活動は全て主たる活動として記録し、開始時刻と終了時刻の回答に時間を割くべきで、本当の同時並行活動だけを副次的活動として回答すべきです（あるいは副次的活動を収集しない場合には無視します）。

448. しかし回答者は、たとえ本当は主たる活動であっても短時間の活動なら副次的活動と報告するほうが都合がいいと考えるかもしれません。例えば、回答者が電話に出るためにアイロンがけを中断した場合、こうした活動は、アイロンがけ、電話での会話、アイロンがけ、と記録すべきです。しかし回答者は、アイロンがけを単一活動として報告し、電話での会話を副次的活動と報告するかもしれません。

449. このため、副次的活動の報告は本当の同時並行活動ではないというだけでなく、ほぼ確実に、短時間ずつ行われた活動を、回答者が別々の活動として報告しなかったこととなります。ながら活動がずっと行われたとすると、10分または15分全部を主たる活動と副次的活動の両方に配分することで、主たる活動にかけた総時間を過大評価することになります。

08.01.02 同時に行われることがなぜ重要か？

450. ながら仕事(multitasking)は、以下の点から重要と考えられます。

- ながら仕事は、極めてよくあることです。人々は1日のうち約3分の1は、同時に複数の活動を行っています (Floro and Miles,2003年)。つまりながら仕事は、起きている平均時間に7時間を付け加えることができます (Kenyon,2010年)
- ながら仕事は、ある特定の種類の活動には特によくあります。例えば、育児は家

事など他の活動と並行して行われることが多いものですが、回答者はしばしば世話をする活動を副次的活動として報告します。このため主たる活動だけを対象にしていれば、育児にかけた時間の多くは、調査の推計に現れない場合があります。

- ながら仕事の計上は、幸福度や社会の不平等を理解するうえで影響を与えます。ながら仕事の配分が年齢や文化、学歴、雇用状況、性別、子供の有無、所得などの人口学的要因によって差があることを示唆する証拠があります（Floro and Miles, 2003年）。例えば、女性は男性よりもながら仕事をする傾向があります。
- ながら仕事は、人々の幸福度や生活の質に決定的な影響をもたらします。ながら仕事が行われるということは、潜在的生産性が上がっていることを示唆していることもありますが、過重な労働、自由裁量の欠如、又は（労働と娯楽の活動の間で重複がある場合に）「純粋な」娯楽時間の欠如を示すこともありえます。

08.01.03 同時並行活動は生活時間調査でどのように取り扱われているのか

451. ほとんどの生活時間日記は（HETUS データベースを作成するのに使われるものと同様に）回答者に対して、主たる活動とともに主たる活動と同時に行った他のことを報告するよう依頼していますが、生活時間日記の中には人々が取り組む主たる活動だけを記録し、その間に起きた副次的（または3つ目の）活動を全く無視しているものもあります。また、育児など一部の副次的活動の情報だけを収集する調査もあり、その場合にも通常的生活時間調査の特別な補足として行われることもあります。

452. 同時並行活動を記録する際には、活動を主たるもの、副次的なものなど優先順位を決める必要があります。異なる調査を比較できるようにするための取り組みはあるものの、主たる活動や副次的活動の内容には重要な相違が残ったままです。表 8.1 には、5つの生活時間日記の中でながら仕事を記録する6つの異なる方法を提示し、こうした調査の「ながら仕事」には異なる意味があることを示します。

表 8-1：ながら仕事の様々な記録方法

調査名称と 指示	指示の要点
<p>アメリカ生活時間調査、アメリカ、2007 年 「回答者が複数の活動を同時に行ったと報告する場合には、どの活動が『主たる（優先度の高い）』活動かをはっきりさせるために尋ねる。どの活動かをはっきりできない場合には、インタビュー担当者は最初に回答した活動を記録する」（BLS、2009 年）。</p>	<p>(1) 主たる活動 (2) 最初に言及があった活動</p>
<p>ノルウェー生活時間調査、ノルウェー、1980～81 年 最初の活動欄の見出し：「その時間の中で最も重要な活動」、2 番目の活動欄の見出し：「その時間を使って同時に行ったこと」（Kitterod、2007 年、173）。</p>	<p>最も重要な活動</p>
<p>OPCS（人口センサス調査局、ONS の前身）オムニバス調査、イギリス、1995 年 「同時に 2 つのことを行う場合があるかもしれません。主たる活動が何だったか選んでみてください。例えば、家事をしながら子供を見守っているときは『自分の子供の世話と遊び』ではなく、『家の掃除・片付け』と記録します。複数の活動から選べない場合は、最も長い時間をかけたことを主たる活動として記録します」（Gershuny）</p>	<p>最も長い時間の活動</p>
<p>青年生活時間・幸福度調査、アイルランド、2007～2008 年 「3 つ以上のことをしていた場合には、どの 2 つの活動が最も注意を向ける必要があったか決めてください」（Hunt、nd）。</p>	<p>最も注意を向けていた活動</p>
<p>イギリス国民生活時間調査、イギリス、2000～2001 年 「同時に複数のことをしていた場合には、2 つ目の活動をこの欄に報告してください。例えば、テレビを視聴していて（主たる活動）、お茶を飲むか子供を見守っていた（副次的活動）といったように。どちらが主たる活動で、どちらが副次的活動かを自分で決める必要があります」（ONS、2000 年）。</p>	<p>事例による指針</p>

出所：ケニオン/Kenyon (2010 年)

08.01.04 同時並行活動の時間を測定すること

453. 同時並行活動にかけた時間を測定する 1 つ目のアプローチは、主たる活動にかけた時間だけを計上するものです。この場合、すべての副次的活動の時間は別に計上して別の表を作成します。これは、通常、推計と作表を容易にするため、生活時間調査で最もよく使われるアプローチです。しかし上記で説明したように、1 日の総生活時間の統計を作成するために主たる活動だけを計算することは、副次的活動として報告されることが多い有意義な活動を除外することになります。

454. 2 つ目のアプローチは、同時に行った活動に同じ時間を配分することです。例えば、調理とテレビ視聴に同時に 1 時間かけた場合には、調理に 1 時間、テレビ視聴に 1 時間と測定します。この方法は実行が容易ですが、1 日 24 時間という制約を満たせません。またこの方法では、同時に行われた活動に「かけた時間」は、その活動だけを行ったのと同じと見なしています。この特性は、データを家事の貨幣価値評価に使う場合には、かなり厄介となります。

455. 3 つ目のアプローチは、母集団が主たる活動にかけた時間の割合に基づいて、同時並行活動にかけた時間を割り振るものです。この方法は、母集団がある活動にかけた総時間の平均を計算し、母集団の合計の割合に基づいて、個人がその活動を同時に行うのにかけた時間で配分します。例えば、10 代の少女が 1 週間あたり 10 時間を（主たる活動として）電話での会話に、1 週間あたり 20 時間をテレビ視聴に（これも主たる活動として）

それぞれかけたとすれば、割合は 1 : 2 となり、テレビを視聴しながら一緒に電話での会話を 9 時間かけたとすれば、この時間を電話に 3 時間、テレビ視聴に 6 時間と配分します。このアプローチの利点は、1 日 24 時間という制約を満たすことです。しかし、このアプローチでも同時に行われた活動に「かけた時間」を、もっぱらその活動として行った時間に等しい、と見なしています (UN、2005 年)。さらに活動にかけた時間が、実際よりも少ないとの印象を与えます。

456. 下記の例は、2008～2009 年のイタリアの生活時間データに基づいたもので、同時並行活動の関係性と測定の課題の実例を示しています。表 8.2 は、自己使用のためのサービス生産に適した主たる活動 (列) と副次的活動 (行) にかけた平均時間を報告しています。斜め線 (黄色で表示) は主たる活動だけの分単位の時間です。

457. 表 8.2 は、副次的活動にかけた時間が 1 日に合わせて 4 時間であることを明らかにしています。これは、何がながら仕事に影響するかを把握するうえで重要です。特に、

- コード 31～39 では、黄色で示した四角内の斜め線の合計は 143.4 分です（赤字の数字を参照）。【訳注：表は小数点以下が表示されていない。】
- 黄色の四角内の時間は 147 分です。例えば、主たる活動として「調理、洗濯、食器の収納」を行った人では、「自分の家族の子供の世話」（コード 38）には 0.9 分かけています。
- 活動の 3.1～3.8 の行の合計を見ると、全体で 203.6 分のうち約 56 分が「社交(social life)【訳注：友人知人等と過ごす時間(付き合い)】」（14.1 分、緑色の数字を参照）や「テレビとビデオの利用」（25.4 分、緑色の数字を参照）として定義された副次的活動に使われています。実際に、家計の生産的活動にかけた合計 203.6 分のうち、自由時間と社交にかけた副次的活動は 56 分です。ここで疑問となるのは、こうした時間を自己使用のためのサービス生産の貨幣価値の推計で、生産的と見なすかどうかという点です。
- 同じことは、3.1～3.8 の列の合計を見る場合にも当てはまります。153.7 分のうち、6 分は副次的活動として自由時間と顔や体のケアに費やされています（緑色の数字を参照）。つまり 2 分がテレビの視聴、ほぼ 1 分が社交活動、1.6 分が飲食、ほぼ 1 分が顔や体のケアなどです。ここでも疑問となるのは、これを自己使用のためのサービス生産の時間に含めるべきかという点です。

08.01.05 同時並行活動の時間の貨幣評価を測定すること

458. 重複する活動の回答と測定の方法で合意ができたとしても、その評価に関連して依然として多くの問題が残されているため、同時並行活動を自己使用のためのサービス生産の貨幣価値評価に組み込むことは困難です。

459. これを説明するために、回答者が 1 時間を調理（主たる活動）と子供の世話（副次的活動）に同時に使ったと仮定します。もしジェネラリスト賃金のアプローチを使えば、貨幣価値の評価は単純で、使った時間全体についてジェネラリストの賃金で貨幣価値を評価します。もしスペシャリスト賃金のアプローチを使えば、その時間の評価方法を決める必要があります。全体の時間をプロの調理人の賃金で評価する、全体の時間を育児労働者の賃金で評価する、あるいは 1 時間の一部は家政婦の賃金で評価し一部は育児労働者の賃金で評価するとなります。最後の評価法を使う場合には、2 つの活動への時間の配分方法を決めなければなりません（前のセクションを参照）。ジェネラリスト賃金を使えば、同時並行活動の処理はかなり単純になりますが、同時並行活動の 1 つが家事でない場合には、両方の評価アプローチのもつれを解く必要があります。

460. 表 8.3 に、非市場生産でかけた時間の推計を活動別に分けたものに加えて、2003 年のアメリカにおけるこの生産の総貨幣価値について、ATUS データに基づいた 4 つの推計を示します。Frazis and Stewart（2004 年）は、家事の 2 つの代替的な定義に対して、ジェネラリスト賃金とスペシャリスト賃金を適用しています。最初の定義は、世帯員が主たる

活動として行った家事とケアです。2番目の定義はもっと幅広いもので、育児を副次的活動として含めています⁴⁴。著者たち（Frazis and Stewart）は、回答者が主たる活動として非市場生産に携わっていた時間中に行った副次的活動を除外しています。ジェネラリスト賃金は、CPS（アメリカ人口動態調査）から2003年の調査対象グループである **Outgoing Rotation Group** のファイルを使って取得しました。3桁の各職業の時間加重平均賃金を計算し、各非市場活動にかけた時間をその活動に最も似通った職業の賃金により貨幣価値を評価しました。ジェネラリスト賃金については、掃除サービスと家政婦の時間加重平均賃金を使用しました。ジェネラリスト賃金ではなくスペシャリスト賃金を使うことで、非市場生産の価値が6~9%増えますが、これは活動によって変動します。個別項目の評価の違いは予想どおりです。

⁴⁴ 米国生活時間調査（ATUS）は副次的活動を収集していない。しかし調査には、回答者に対して13歳未満の子供を「自分で世話」していた時間を明示するよう尋ねる一連の質問がある。こうした質問の目的は、回答者が何か別のことをしながら子供の世話をしている時間数を測定することである。

表 8-3：自己使用のためのサービス生産の代替的評価方法、アメリカ生活時間調査 (ATUS)、2003 年

活動	総時間数 (10億時間)	非市場生産の総貨幣価値 (10億ドル)	
		スペシャリスト 賃金を用いた場合	ジェネラリスト 賃金を用いた場合
家事	51	461	461
食事の用意・片付け	44	376	397
屋内・屋外の修繕	13	178	121
庭仕事	16	183	149
財・サービスの購入	67	609	609
その他家事	27	374	243
育児（主たる活動）	39	373	359
成人のケア	6	52	52
合計（副次的育児を除く）	263	2,605	2,391
育児（副次的活動）	85	746	777
合計（副次的育児を含む）	348	3,351	3,167
有償労働	277		4,888
国内総生産（GDP）			11,004

出所：Frazis and Stewart (2004).

08.01.06 まとめ

461. 同時並行活動を自己使用のためのサービス生産の貨幣価値評価に含めるには、こうした活動にかけた時間を、どのようにして測るか決定することが重要となります。この問題に関する現在の知識は、明快な勧告事項を策定するには不十分で、さらなる作業が必要です。

8.02 ボランティア活動

462. 第 19 回 ICLS の生産形態の枠組みは、本報告書の第 2 章と第 3 章で説明しました。この枠組みにおける生産形態のうち 2 つは「無償家計サービス生産」、すなわち自己使用のためのサービス生産とボランティア活動とみなすことができるのではないかと指摘しました。自己使用のためのサービス生産（この「指針」のテーマとして考慮すべき中心点）と同様に、ボランティア活動への参加と貨幣価値評価についての統計資料は、どちらかといえば不十分なものです。

463. ボランティア活動の測定と貨幣価値評価に関する具体的なガイドラインが必要といふのであれば、ガイドラインとなる既存の資料を参考にできます。ILO は 2011 年に「ボランティア活動の測定マニュアル」⁴⁵を公表しました。これには定義及びボランティア活動について勧告する測定アプローチが示されています。またこのマニュアルには、評価アプローチに関する簡潔な解説もあります。測定と評価のアプローチの選択で検討する事項は、この「指針」で説明したこととよく似ています。しかし、ボランティア活動の貨幣価値の評価に代替費用法を採用する場合には、「shadow【訳注：計算上の最適な】」賃金の計算にどの職業グループを使うか検討することが大切で、これは自己使用のためのサービス生産に使った職業グループとは異なる可能性もあります。

⁴⁵ 「ボランティア活動の測定マニュアル (Manual on the measurement of volunteer work)」、ILO, 2011 年：
http://www.ilo.ch/wcmsp5/groups/public/---dgreports/---dcomm/---publ/documents/publication/wcms_167639.pdf

464. 2011年のILOのマニュアルを使う際の留意点は、第19回ICLSの基準が採択される前に書かれているため、ボランティア活動にその基準とは異なる定義を適用していることです。重要な相違点は、ボランティア活動と見なす活動の対象範囲に関わるものです。具体的には、2011年のILOのマニュアルでは、ボランティア活動を「無償の非強制的な生産である。これは個人が、自分の世帯の外の他人に対して組織を通じて行う、あるいは直接的に行う活動に無報酬で提供する時間」と定義しています。第19回ICLSで採択された生産形態の枠組みの中では対象範囲が狭められたため、現在ではボランティア活動は、世帯又は家族の外の人々に対して行う無償の非強制的な生産です。影響が出るのは、他の世帯の一員のために行った生産に関係したものです。以前は、これがボランティア活動と見なされていましたが、最新の基準では自分の世帯員のために行った無償の活動と共に、自己使用のためのサービス生産の一部と見なされています。

465. ILOのマニュアルに加えて、国連の「国民経済計算システムにおける非営利団体に関するハンドブック」⁴⁶の公表間近な改訂版も、ボランティア活動の評価アプローチを説明しています。

466. ボランティア活動についても測定と評価を行おうと考えている国は、こうした入手できる指針を参照にすべきです。また、貨幣価値のいかなる推計に含まれる活動形態を明確にすること、及び、ボランティア活動を含める場合には、測定と評価のプロセスを自己使用のためのサービス生産とは区別すること、これらのことが極めて重要です。これにより、測定については、第19回ICLSの基準と確実に整合的となり、作成した推計の透明性、比較可能性、一貫性をもたせるのに役立ちます。

467. すでに述べたように、このマニュアルの指針は、ボランティア活動を測定及び評価する作業においてある程度役立つでしょう。しかし、優れた作業事例や実務に役立つ概念を見つけ出し、さらに発展させていくためには、こうした作業だけを対象にした具体的なガイダンスを作成してみる価値があります。タスクフォースは、これをフォローアップ活動において検討すべき作業分野の一つとすることを勧告します。

⁴⁶ 本ガイドの執筆時点で、ハンドブックの改訂版は諮問プロセスの手続きが進められていた。諮問のために入手できる改訂案は以下で参照できる：http://unstats.un.org/unsd/publication/seriesf/seriesf_91e.pdf